

編集後記

昨年度の河原委員長の後を受けて、本年度の委員長を務めさせて戴きました。

少しでも面白くて読み応えのある、そして、ためになる会報を目指しました。身のほどを知らずに欲張ったせいもあり、入ってくる原稿の量が多くなるに連れて、だんだんわけが分からなくなり、最後はほとんどパニック状態に陥ってしまいました。それにしても、各委員の熱心さには驚かされました。これが私のエネルギーになったことは間違いありません。多忙の中を執筆して下さいました先生方、そして全委員には本当に感謝しております。

担当副幹事長である藤澤則昭先生の多大なるご指導もあり、多少は実現できたのではないかと思います。来年度へ向けて委員の励みにもなりますので、会員の先生方のご叱正を賜うことができれば幸いです。

(中田 和博)

今、出張先である北海道の汽車の中で編集後記を書いています。まず、何より先に、原稿を執筆頂きました先生方に感謝の言葉を申し上げなくてはなりません。今回原稿をお願いした先生方は、皆様、超ご多忙の方ばかりで、正直、期限までに原稿が集まるのかな、と内心不安でした。しかし、自分が担当させて頂いた殆どの先生方は、きっちり期限までに原稿を送って頂いた(実は、この期限は、2、3回の催促を見込んでかなり余裕をもって設定したものであります)のには、驚きと共に、スケジュール管理と時間の使い方の見事さに僣越ながら感服致しました(自分なら、恐らく執筆依頼自体忘れており、何回か催促を受けた後に漸く取り掛かったと思われるので)。最後に、中田委員長をはじめ、委員の皆様、1年間本当にありがとうございました。さー、編集後記も書いたし、今日は仕事終わったら帰りの飛行機の中で秋華賞の予想しよーっと。

(伊藤 温)

原稿の執筆を頂いた先生、お忙しい中、誠に有り難うございました。また、会報委員長の中田先生ご苦勞様でした。会員だよりの掲載人数が増えて、一寸困っていたところ、自分で書けばの一言で4名のうちの1名は自分になってしまいました。依頼するのも、書くのも大変です。

(江藤 聡明)

6年間日本を離れ、ロンドンに滞在してありましたこともあり、会派の活動にはすっかりご無沙汰申し上げました。今回中田委員長のもと、日弁という大きな組織の中で、専門分野、会派を越えたさまざまな先生方とともに、日弁会報誌の編集活動に携わることができうれしく思いました。貴重なお時間を割いて、すばらしい原稿をご執筆いただきました先生方にも厚くお礼申し上げます。

(河合 千明)

前年度は、この委員会の委員長を仰せ付かったので、連続して2年会誌委員会担当ということになりました。

今年は、委員長から命じられるまま、原稿依頼及びその期限管理をするだけでしたので、少し楽をさせて頂きました。

その分中田委員長、大変ご苦勞さまでした。

最後にささやかな打上げ、期待していいのかな??

(河原 正子)

昨年に引き続きの懺悔です。

悔い改めよ!この言葉の重みを噛みしめている間に、はや編集後記を書く時期になってしまいました。この時期は、新たな弁理士が生まれつつあるときでもあります。ここ数年の間に知的財産権を取り巻く環境は大きく変わり、その中心的役割を担うべき弁理士が装備しておくべき知識も(私の知らない間に)増えてしまいました。日々変化し飛躍を遂げようと

する知的財産権の世界の中であって、今まさに産声をあげた彼等は大いなる知識を携えて間違いなく我々の仲間として力となってくれると思います。...が、時が止まったかのように、つつましく(?)知的成長を控えている私が、この委員会において為すべきことは一体何だったのか。仮に何かあるとしても、今となってはもう遅いのです。委員長を始め、各委員の皆様、すみません。

(菊池 桂子)

今年の夏に北アルプスを歩いてきました。2名が大阪から、1名が名古屋から、2名が東京から、それぞれ夜行列車に乗り、信濃大町駅で集合しました。集まった5名は日本弁理士会の新人研修で知りあった同期の仲間です。みな、忙しい仕事の日程をやりくりして来ていました。久しぶりに会う友人もいました。早朝から山に登り始め、初日に冷池山荘に泊まり、翌日鹿島槍ヶ岳に上った後、大町温泉に下りて温泉を楽しみました。鹿島槍ヶ岳から日本海を覗いた様な気がします。日頃の運動不足が不安でしたが、何とか足でまといにならずにすみません。温泉につかった後で各自の近況報告を交換していると、大変に楽しい気持ちになりました。今、他人に気を使うことのない気ままな特許事務所経営をしています。それにもまして、弁理士になってこの世界に入らなければ得られなかったであろう多くの友人を持つことのできたことが、大変に楽しく、愉快でした。この仕事を通じてさらに多くの人に出会えると思うと、毎日が楽しみです。

(小塚 敏紀)

今年度、初めて日弁会報委員を務めさせて頂き、日弁の活動の一部を垣間見ることができ、毎年何となく受け取っている日弁会報が多数の先生方のご努力により成り立っていることを知りました。

完成された「日弁」会報誌は、中田委員長のアイデアにより、「会員だより」が例年よりも充実されており、会員の皆様にとっても大変興味をそそられる

内容になっているものと思います。

ご多忙の中、原稿の執筆にお時間を割いて頂いた先生方、本当にありがとうございました。また、適確なご指示と編集作業を行って頂いた中田委員長を始め、他の委員の先生方には、大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

(須田 浩史)

昨年に引き続き会報委員を務めましたが、今年は「会員だより」のボリュームも増えましたので、例年にも増して楽しんでいただける内容になっていると思います。それもこれも、貴重なお時間を割いて原稿を執筆して下さいました諸先生のお陰と、心より感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。

(苫米地 正敏)

今年の稲門の会員だよりは、TLO、社会人法科大学院、米国ロースクール、企業内弁理士などホットな話題を選んでみました。学生時代に留学を企て、大枚をはたいて「留学生を受け入れる世界の大学」のような書籍を購入しました。結局はいろいろな事情で頓挫してしまいました。その後、父からカナダ留学の勧めもあったのですが、断ってしまいました。もし留学していれば、弁理士になることはなく、外資系企業に勤務しているのではないのでしょうか。メーカの技術者時代に弁理士試験に合格しましたが、会社に残っていれば、今ごろは職務発明問題に頭を悩ませているでしょう。米国のロースクールにも是非と思いつつ、そろそろ難しい年齢に達しつつあります。若い頃ロースクールに行っていれば、さて今頃はどんな人生だったのでしょうか。たればは禁物と思いつつ、毎日、弁理士として充実した毎日を送れる幸せを感じる今日このごろです。

(永井 冬紀)

私自身が所属する春秋会では、会誌委員会(広報委員会)の委員等を数回担当しましたが、日本弁理士ク

ラブでは、執筆依頼を担当しただけですので、感慨に耽るということもなく、無事発行できてよかったというのが本音です。その分、中田委員長・各会派副委員長の負担が大きかったこととお察致します。弁理士会会長その他重職の先生となりますと、多忙の上、各種原稿の執筆に接する機会も多いだろうことは容易に予想することができます。執筆者の先生、それを担当した委員の先生、本当にご苦労様でした。

（樋口 和博）

今年の春先の午後、一本の電話が鳴った。クライアントとの打ち合わせのために事務所を出る寸前であつたが、たまたま私が電話を取ってしまった。相手は、人事部会の先生であつた。その先生とはもちろん面識があるが、時期的に嫌な予感がした。案の定、委員会の依頼であつた。時間もなかつたので、

単刀直入に「どこですか？」と聞いたところ、日弁の会報委員会とのこと、弁理士になって十数年たつが、会報なる仕事には携わつたことはなく、日弁の委員会も未経験であり、思わず「なにをやるの？」と聞き返してしまった。断るために何回かやりとりをした記憶があるが、打ち合わせの時刻が迫っていて焦っているせいか、うまい具合に断れず、結局、時間切れで、電話相手の「違うムラの先生と知り合ういい機会だよ」という殺し文句？に自分を納得させ引き受けてしまった。「わかりました。平委員で受けます。」との反撃に対しては、「副委員長の予定」の一言で、討ち死.....。

でも、参加してみると、よかったかなと思います。

最後に、話の順番が全く逆になり申し訳ございませんが、原稿の執筆を頂いた先生方、お忙しい中、誠に有り難うございました。

（松井 伸一）